

# 杖立温泉街に関するまちづくり支援データベースの構築とサイン環境の評価

02105058 広瀬 拓也

## 1. 研究の背景と目的

近年、まちづくりにおける市民参加の拡大の中で情報の共有を行うコミュニケーションツールとして、地理情報システムなどの空間を扱う技術が期待されている。本研究の対象地である杖立温泉街は、2003年に「杖立景観整備基本計画」<sup>1)</sup>を策定し、住民主体のまちづくりが進められている。さらに、定期的に杖立温泉街のまちづくりに関して話し合う場が設けられ、住民参加の計画調整が行われている。このような合意形成の場において示される計画案は、出来る限り客観的かつ合理的であることが望まれる。そのため、既存の空間資源のストックを体系的に収集し、管理する必要がある。そこで今回の研究では、杖立温泉街の空間情報を体系的に整理し、合意形成の場でツールとして使用できるデータベース（以下、「まちづくり支援データベース」）を構築することを目的とした。

## 2. 杖立温泉街について

研究対象地である熊本県阿蘇郡小国町下城地区、杖立温泉街は熊本県の最北端で筑後川の上流に位置する（図-1）。杖立温泉街は、1993年をピークとして旅館、公共施設、各種店舗といった空間需要は低下の一途をたどってきた。このような状況を解決するために2004年の3月に「杖立景観整備基本計画」が策定され、住民参加のもとまちづくりが進められている。また、先に述べた「杖立景観整備基本計画」内の「第5章 情報提供の計画」において、観光客に向けた分かり易いサイン環境の整備が求められている。したがって、今回の研究では、「まちづくり支援データベース」として、「サイン環境に関するデータベース」を構築する。



図-1 小国町の位置

## 3. 調査概要

杖立温泉街の全域（図-2）のサイン環境について、徒歩調査を2005年10月19日、12月09、27、28、29日の5日間に分けて行った。調査方法は、サインをカメラで撮影し、撮影したサインに番号を付けてサインの空間情報をゼンリンの住宅地図上にプロットしていった。また、サイン環境を整備する際に必要な情報である公的・私的、設置主体、機能、設置形態、素材の5つの情報をデータベースを構築する際のインデックスとし、上記の5つの情報についても調査した。

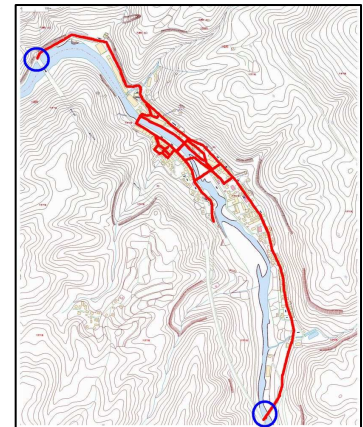


図-2 杖立温泉街

## 4. データベースの構築について

本研究で構築する「まちづくり支援データベース」は、株式会社ソフトプラネットが販売している凡庸地図ソフトであるSmap Easyを使用する。図-3はデータベースを構築する際の入力画面である。調査したサインについての情報と画像を入力画面の左側にある台帳に取り込み、次にサインの位置を確認し、情報と画像が入力された台帳と電子地図をリンクさせる。この作業を繰り返しながらデータベースを構築していく。

構築したデータベースは情報の検索や絞り込み機能などもあり、必要な情報を簡単に検索することができる。

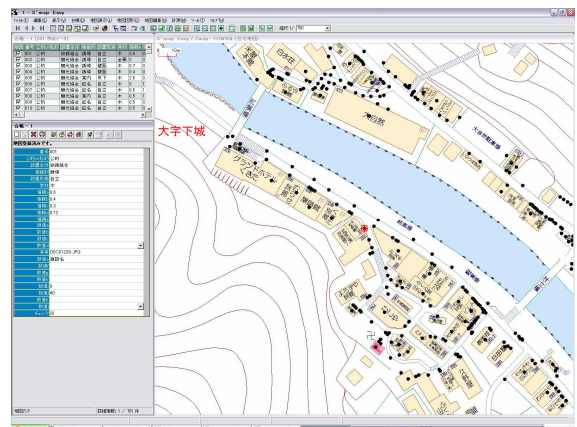


図-3 データベースの入力画面

## 5. 調査結果

杖立温泉街のサインを調査した結果、サインの総数は679個でそのうち公的サインが236個で、私的サインが443個

存在した。本研究における公的サインとは行政や観光協会が公共性の高い空間や施設のために設置しているもので、私的サインとは個別に旅館や商店が設置しているものである。公的サインと私的サインの機能別分類については、図-4に結果を示す。杖立温泉街のサインの機能別の割合を図-5に示す。杖立温泉街は、観光地であることから、公的サインには観光客を対象とした案内サインや誘導サインが多く設置してある。

## 6. 情報提供の必要な場におけるサイン環境の評価

「杖立景観整備基本計画」の中で体系的な情報提供の仕組みを作り出すためには、発着地点・情報拠点・選択の場・接近の場・誘導の場の5種類の「情報の場」を設定し、観光客にとって分かり易く、印象に残る情報提供の仕組みを作る必要があると書かれおり、重点的に整備する場所も具体的に挙げられている。本研究では、その中からより重要であると考えられるいくつかの地点を選択し、「まちづくり支援データベース」を使用して、サイン環境の評価を行った。以下に例として無料駐車場の入り口周辺（図-6）のサイン環境の評価を行う。

無料駐車場は、5種類の「情報の場」の分類によると発着地点である。発着地点は、観光客の行動の起点となりうる場であるので観光客に杖立温泉街の情報を提供したり、情報を提供する場への誘導が必要な場所である。しかし、杖立温泉街の全体を表す案内サインは図-7の①のように簡略化された図で表現され、観光客が旅館や商店といった知りたい情報を知ることができない。図-7の②の案内サインは旅館の位置情報などを知ることが出来るが、駐車場と離れた位置に設置してあるために観光客から利用されることはあまりない。このような現状のため、無料駐車場では多くの人が利用するポイントに杖立温泉街全体を把握できるような案内サインを設置することが望ましい。また、無料駐車場への誘導サインは、図-7の③、④の2つだけである。車の利用者が使用する誘導サインは、適切な間隔で設置されると同時に、前後のつながり・関係性が明確に理解できるサインなどを設置する必要があると考えられる。

## 7. 結論

1) 「まちづくり支援データベース」として、杖立温泉街のまちづくりを計画する際の計画支援ツールとなるデータベースの構築を行った。今回調査したサイン環境に加え、今後様々なデータを加えることにより、今後のまちづくりを行う際の基礎データとなることが考えられる。

2) サイン環境に関しては、不要となっているサインが多く存在していることが明らかとなった。観光客の視点から整備していく必要があり、「情報の場」のつながりを考えながら計画する必要がある。

### 【参考文献】

- 1) 小国町地域振興課：杖立景観整備基本計画 2003
- 2) 田中直人、岩田三千子：サイン環境のユニバーサルデザイン 学芸出版社 1999

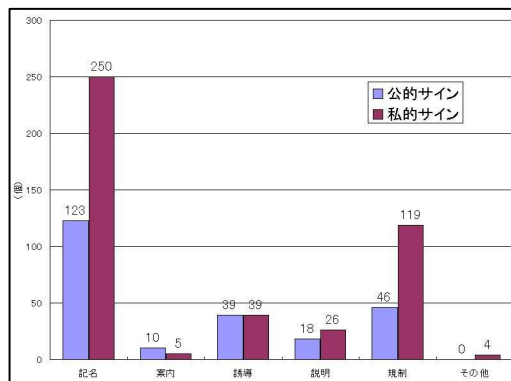


図-4 サインの機能別分類

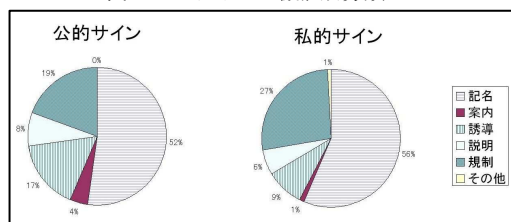


図-5 サインの機能別の割合

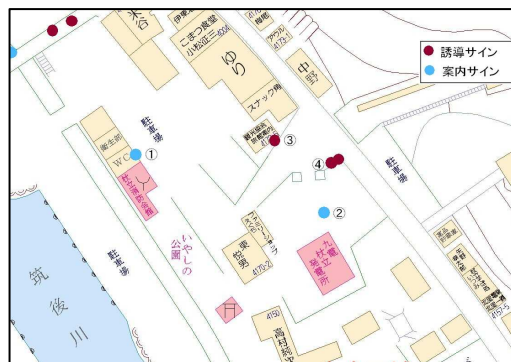


図-6 無料駐車場入り口周辺のサイン環境



図-7 無料駐車場入り口周辺に設置されているサイン